

ダンス・身体表現の指導に関する研究 —保育者への調査より—

宮下 恭子

A study of the teaching concerning about Dance and movement expression

Kyoko Miyashita

キーワード：幼児、ダンス、身体表現、保育者、意識調査

【緒言】

幼児教育に携わる保育者にとって、優れた身体表現の指導力や実践力を持ち合わせることは、保育の質的向上に直結するものである。平成20年に改訂された幼稚園教育要領並びに保育所保育指針において、「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、作ったりする。」「自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」¹⁾、「保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ」²⁾、などに謳われ、領域「表現」の保育内容として身体を使った表現遊びやダンスなどが取り上げられているため、保育者は身体表現やダンスなどを必須課題として指導を行っている。

また、小学校および中学校の指導要領改訂の年が、平成23年、平成24年であり、小学校は、ここ10年間のゆとり教育の見直しの観点から、「生きる」の育みを一層の進めていくカリキュラムとなり、教科「体育」の授業時間数も小学校と中学校の全学年で10%増加することになった。

新学習指導要領において、教科「体育」の中で1学年、2学年に「表現リズム遊び」が新たに加わり、その内容には以下の事柄が示されている。

(1) 次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。

ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること。

イ リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。

(2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 簡単な踊り方を工夫できるようにする。

さらに、簡単なフォークダンスを含めて指導することができる、と記され、これまでの学習指導要領よりは、より一層、表現やダンスの扱いを充実させていくことが示されている。一方、幼稚園教育要領の改定の重要事項として「幼少連携を推進すること」³⁾が示されていることから考えると、幼稚園の保育内容には23年から改訂される小学校以降の教科における身体表現やダンスの取り扱いも念頭において保育カリキュラムを構成しなくてはならないであろうことから、保育者養成校では、身体表現やダンスを取り入れたカリキュラムの充実

を図らなければならないと考える。

【目的】

筆者はこれまで、保育者養成校の学生を対象とし、ダンスや表現に関して自己意識や学修による意識の変容、それらの指導に関する自信や不安などについて調査を行ってきた。多くの学生は、ダンスが好きであり、踊ることや表現を自ら楽しむことができるようであったが、保育者となって指導に関わる上での不安は多く持っているようであった。

この点について、卒業後保育者となった後、身体表現やダンスについての意識や指導不安などは変容していったであろうか、という疑問が残されたままであった。

そこで、今回、現職の保育者を対象に同様の調査を行う機会が得られたので、保育経験の豊富な保育者の持つ表現やダンスの自己意識及び指導に関する事柄について調査を行い、保育経験者の実態を明らかにすることにした。本調査によって得られた結果は、学生の意識との相違について検討していくための基礎資料としたい。

【研究方法】

1. 平成 23 年度、免許状更新講習参加者のうち、選択講習（子どもの身体表現）を受講した現役幼稚園教諭及び幼稚園教諭免許を保有する人を対象に「子どもの身体表現・ダンスの指導に関するアンケート調査」を行った。回答方法は 3 件法、または 4 件法による選択回答法及び自由記述法を用い無記名での回答の協力をお願いした。この調査ではできるだけ保育者自身の生の声を聞き入れて実態を調査するため、記述式の回答方法を多く取り入れることにした。

2. 調査期日は 2011 年 6 月 25 日

3. 対象者は女性 40 名、アンケート回答者は 38 名、アンケート回収率は 95%であった。

4. 調査内容

(1) プロフィール

- ① 男 女 ② 年齢 ③ 保育の職経験年数
- ④ 勤務先（公立・私立 幼稚園・保育所・その他）
- ⑤ 勤務地（東京都・東京以外の関東地区・関東地区以外）

(2) 自身のダンス感について

- ① ダンスや表現運動の好き・嫌い（4 選択肢より単一回答）
- ② 現在ダンスや表現運動の得意・不得意（4 選択肢より単一回答）
- ③ 学生時代までのダンスや表現運動（4 選択肢より単一回答）
- ④ ふだんテレビや映画・公演などでダンスを観る機会（3 選択肢より単一回答）
- ⑤ どのようなダンスに興味があるか（自由記述）

(3) ダンスや表現運動の指導に関する事柄

- ① 現在、子どものダンスや表現運動を教えること（4 選択肢より単一回答）
- ② ダンスや身体表現で指導が難しいと考えられる点について（自由記述）

- ③ 保育のイベントなどで、親子でのダンスや体操の取り組み（3選択肢より単一回答）
- ④ 子どもにダンスや表現運動を指導する際、困る事や悩むこと（自由記述）
- ⑤ ダンスや身体表現の子どもにとっての意義や価値（自由記述）
- ⑥ 子どもがダンスや身体表現を楽しんでやるための工夫（自由記述）

（４）保育現場における子どものダンスや身体表現の様子

- ① 保育現場でのダンスが好きな子（4選択肢より単一回答）
- ② 最近、子どもたちがよく踊っているダンス（自由記述）

（５）今後のダンスや身体表現への課題

- ① 今後、ダンスの研修やダンスを習うこと（4選択肢より単一回答）
- ② 上記①でやってみたいと回答した人は、どんなダンスを習いたいのか。（自由記述）
- ③ 上記①でやりたくない・あまりやりたくない、に○をつけた人の理由（自由記述）
- ④ 今後、ダンスや身体表現について研修会等で学びたいこと（自由記述）
- ⑤ その他、ダンスや身体表現についての指導で知りたいこと、疑問（自由記述）

【結果】

（１）プロフィール

受講者は全員女性であった。年齢、保育の職経験年数、勤務先、勤務地について纏めたものは表1から表4に示す。

表1～4から、対象者の年齢は33歳～35歳が多く、次いで40歳～45歳が多かった。勤務年数は10年～14年が多く、平均勤務年数は14.6年と経験豊富な人が多かった。また、勤務先はほとんどの人が東京の私立幼稚園であった。

（２）自身のダンス感

- ① ダンスや表現運動の好き・嫌い

「好き、少し好き、あまり好きでない、嫌い」の4選択肢より回答を求めた。その結果は表5に示す。表5より、現在のダンスや表現の好き・嫌いでは、「少し好き」の人が最も多く50.0%であった。「好き」とはっきり回答した人は28.9%であり、両者合わせると78.9%の人が好きといえる。

表1 対象の年齢層

	人数	%
33歳～35歳	15	39.5
40歳～45歳	12	31.6
50歳～55歳	7	18.4
無回答	4	10.5
合計	38	100.0

表2 対象の勤務先

	人数	%
公立幼稚園	2	5.3
私立幼稚園	30	78.9
その他	4	10.5
無回答	2	5.3
合計	38	100.0

表3 勤務年数

	人数
5年未満	1
5年～10年	3
10年～14年	20
15年～19年	4
20年以上	8
無回答	2
平均勤務年数	14.6

表4 勤務地

	人数	%
東京	29	76.3
関東地区	1	2.6
その他	3	7.9
無回答	5	13.2

② ダンスや表現運動の得意・不得意

現在ダンスや表現運動の得意・不得意について、また学生時代までのダンスや表現運動の得意・不得意について「得意、少し得意、あまり得意ではない、苦手」の4選択肢より回答を求めた。その結果は表6に示す。

表6より、「得意」、「少し得意」を合わせた数（現在では、24名、63.2%、学生時代には23名60.1%）は、「あまり得意ではない」、「不得意」を合わせた数（現在では、13名、34.2%、学生時代には15名、39.5%）より多く、また少数ではあるが学生時代よりはダンスや表現運動の不得意な人が減っていることがわかる。

表6 ダンスや表現運動の得意・不得意について

	現在		学生時代	
	人数	%	人数	%
得意	6	15.8	3	7.9
少し得意	18	47.4	20	52.6
あまり得意でない	11	28.9	10	26.3
不得意	2	5.3	5	13.2
無回答	1	2.6	0	0.0
合計	38	100.0	38	100.0

④ ダンスを観る機会

ふだんテレビや映画・公演などでダンスを観る機会はどれくらいあるかに、ついて「ほとんどない、少しはある、よくある」の3選択肢より回答を求めた。その結果は表7に示す。表7より、「よくある」、「少しある」、を合わせた数（23名、60.5%）は「ほとんどない」と回答する人（13名、34.2%）よりは多く、ダンスを意識的に観ていることがわかる。

表5 ダンス・表現運動の好き嫌い

	人数	%
好き	11	28.9
少し好き	19	50.0
あまり好きでない	7	18.4
嫌い	0	0.0
無回答	1	2.6
合計	38	100.0

表7 ふだんダンスを観る機会

	人数	%
ほとんどない	13	34.2
少しある	20	52.6
よくある	3	7.9
無回答	2	5.3
合計	38	100.0

⑤ 興味のあるダンス

対象者は、どのような種類のダンスに興味があるか、について自由記述による回答（複数回答あり）を求めた。その結果は表8に示す。

最も回答の多かったダンスの種類は、ヒップホップであったが、多くの種類のダンスが挙げられた。中でも、最近流行している大人のダンス（フラダンスやカーヴィーダンス）やアイドルのダンスなども挙げられた。

表8 対象者自身が興味のあるダンス

自由記述回答事例	件数
ヒップホップ	3
社交ダンス	2
振り付け・アイドルの振り付け	2
クラシックバレエ	2
カーヴィーダンス	1
学生時代の創作ダンス	1
フラダンス	1
カントリーダンス	1
ベリーダンス	1
リボン体操	1
計	15

（3）ダンスや表現運動の指導に関する事柄

① 子どもへのダンスや表現運動の指導

現在、子どものダンスや表現運動を教えることは難しいか否かについて、「全く難しくない、あまり難しくない、少し難しい、難しい」の4選択肢より回答を求めた。その結果は表9に示す。表9より、「難しくない」との回答者（全く難しくない、あまり難しくないを合わせて18名、47.4%）の方が「少し難しい」との回答者よりは若干多いが半数近くの方が「少し難しい」と感じているようである。

表9 子どもにダンスや表現運動を教えること

	人数	%
全く難しくない	2	5.3
あまり難しくない	16	42.1
少し難しい	16	42.1
難しい	0	0.0
無回答	4	10.5
合計	38	100.0

② ダンスや身体表現で指導が難しいと考えられる点

ダンスや身体表現で指導が難しいと考えられる点について、全対象者に自由記述（複数回答あり）を求めた。その結果は表10に纏めた。

表10より、回答をいくつかのカテゴリーで纏めると、①イメージを伝えることに関する事柄が13件、②表現方法・表現技能に関する事柄が6件、③リズム能力に関する事柄が3件、④個人差や発達の差に関する事柄5件、⑤ダンスに消極的な子に関する事柄7件、⑥やる気(意欲)のない子への対応5件、となった。最も多いものは、子どもにイメージを持たせることの難しさであり、ダンスが嫌いな子に関することや、やる気を持たせることについても多く、合わせて12件の回答があった。

表10 指導が難しいと考えられる点について

イメージを伝える	13	表現方法・表現技能に関すること	6
思いいが上手く伝わらない	5	表現のレパートリーが少ないなど	4
イメージが伝わらない	2	表現がワンパターンである	1
表現方法を言葉で伝えること	1	回転の指導、左右の動きの理解	1
子どもに理解させること	1	個人差・発達の差	5
イメージが描けない	1	個人差がある	2
イメージをしっかりと表現すること	1	一斉指導ができない	2
手本をまねするだけ	1	障害を持つ子の指導	1
情報不足の子に想像力を持たせること	1	やる気を持たせること	5
ダンスに消極的な子がいる	7	ダンスの嫌いな子にも楽しく	1
やる気のない子	2	出来ない子の気持ちを盛り上げる	1
興味のない子	1	心から楽しむ表現方法	1
やりたくないという子	2	子どもの注意を引くこと	1
恥ずかしがる	1	子どもの目線との違い	1
リズム感に関すること	3		
リズムに合わない子の指導	2		
リズム感のない子の指導	1		

③ 保育のイベントでの取り組み

保育のイベントなどで、親子でのダンスや体操の取り組みの経験があるか否かについて、「よくする、1～2回したことがある、したことがない」の3選択肢より回答を求めた。その結果は表11に示す。表11より、ほとんどの人が取り組みの経験をしていたことがわかる。

表11 行事でのダンスの取り組み

	人数	%
よくする	14	36.8
1～2回経験あり	16	42.1
したことがない	7	18.4
無回答	1	2.6
合計	38	100.0

④ 指導する際の困り事や悩み

子どもにダンスや表現運動を指導する際、困る事や悩むことについて自由記述法で回答(複数回答あり)を求めた。その結果は表12に纏めた。

最も多い回答は、子どものダンスの好き嫌いに関する問題であり、次いで指導方法の問題であった。ダンスが好きでない子への指導に苦慮している様子が伺える。また、動こうとしない子がふえているという事実も見逃せないであろう。指導法の問題では、子どもを理解することの難しさが見て取れる。また、技術面では自己の未熟さや不安が見て取れる。

表12 指導の際に困ること、悩むことについて

好き嫌いのある子の問題	15	指導方法の問題	8
ダンスの好きな子、嫌いな子がいる	5	一人一人の理解力にあった言葉を探すこと	1
好きでない子の接し方	2	出来る子出来ない子の差を埋めること	1
やりたがらない・意欲に個人差がある	2	自由に動き回る子が他の子の邪魔をする	1
座り込んで参加しない子、なかなか動こうとしない子	2	やりたがらない子の盛り上げ方	1
身体を積極的に動かそうとしない子がふえている	1	少人数で教える時に他の子が集中しない	1
落ち着きのない子	1	興味を引く工夫はないか	1
曲や、振りつけで乗り気にならない子	1	のびのびとできているか	1
恥ずかしがる	1	誰もが楽しい活動として取り入れていくにはどうすればよいか	1
技術面での問題	3		
アイデアに行き詰まる	1		
テンポの速い曲が多く、振り付けが難しい	1		
レパートリーが少ない	1		

表13 ダンスや身体表現が子どもに与える意義や価値

回答事例	件数
楽しむ・楽しいと感じ喜ぶ・表現を楽しむ、楽しく身体を動かす	12
感情表現・自己表現・自己主張・自由に表現・自分の思いを動きで表す・のびのびと自分を表現	11
心の解放・心のリラックス・ストレス発散	8
友だちとの一体感・友だち作り・友だちと楽しむ、コミュニケーション力をつける	6
体力向上・バランス感覚・運動能力向上	4
想像力が豊かになる・感受性が豊かになる	4
見てもらう達成感・表現の場	3
自信を持つようになる	2
成長を助ける・自分を深める	2
やる気を引き出す	1

⑤ ダンスや身体表現の意義や価値

ダンスや身体表現が子どもにとってどのような意義や価値があるのか、について自由記述（複数回答あり）で回答を求めた。その結果は表 13 に示す。

表 13 より、最も多い回答は、表現を楽しむ、楽しく身体を動かすなど、楽しさや喜びの意義や価値、次いで、自分の思いを表す、自己表現であった。また、心の解放やストレス発散、友だちとのコミュニケーション力なども多かった。つまり、保育者はダンスや身体表現を子どもの心身の成長・発達に大きな意義や価値を持つ活動として捉えている。

⑥ 子どもがダンスや身体表現を楽しむための工夫

子どもがダンスや身体表現を楽しんでやるための工夫について自由記述（複数回答あり）で回答を求めた。その結果は表 14 に示す。多い回答は、子どもたちがよく耳にする曲や音楽、ノリやすい曲などを選ぶ工夫をしていることであった。また、楽しい雰囲気を作り出す環境整備をしたり、保育者が一緒になって楽しむ工夫をしたりしていることがわかる。さらに、子どもの気持ちに寄り添って、無理をさせたり、押しつけたりしないように、心が解放されるような工夫も心がけていることが伺える。

表 14 子どもが楽しんでダンスや身体表現をやるための工夫

回答事例	件数
音楽選び・最近子どもたちが耳にする音楽を使う・子どもがノリやすい曲を使う	6
ごっこ遊び・まねっこ遊びから始める（人的、物的、音楽選び）	4
環境整備	4
保育者自身が心から楽しんで、子どもと共に表現する	4
楽しい雰囲気作り・ゆとりのある気持ち・興味を持って取り組めるようにする	4
先生も一緒に楽しむ・会話を通し、うたにして表現を楽しむ	4
先生がオーバーに表現し、やりたい気持ちを引き出す・大きな表現のものを選ぶ	4
無理をさせない・押しつけない	2
心が解放される気持ちを味わわせる	1
楽しくノリやすい振り付け	1
どんな時も認め、褒める	1
わかりやすいこと	1

（４）保育現場における子どものダンスや身体表現の様子

① 保育現場でのダンスが好きな子

最近、テレビでのアイドルグループのダンスの影響などから、保育現場ではダンスが好きな子が多くいるのかどうかを尋ねるため、「多い、少し多い、あまり多くない、少ない」の４選択肢より回答を求めた。その結果は表 15 に示す。表 18 から、「多い」（多い、少し多いを合わせた数）との回答は 23 人で 60.5%であった。少ないとの回答はゼロで、あまり多くはないとの

表 15 保育現場でのダンスの好きな子

	人数	%
多い	8	21.1
少し多い	15	39.5
あまり多くない	14	36.8
少ない	0	0
無回答	1	2.6
合計	38	100.0

回答は36.8%であった。これは主観的な回答であるので、ダンスの好きな子も他の運動の好きな子も様々ではあるが、半数以上の子は好きであろうと予測される。

② 子どもたちがよく踊っているダンス

最近、保育現場で子どもたちがよく踊っているダンスについて自由記述（複数回答あり）で回答を求めた。その結果は表16に示す。最も多い回答は、テレビやメディアの影響によるダンスで26件であった。その内容は、アイドルグループAKB48のダンスや、K-popのKARAのダンス、テレビで流れるものまね、ドラマで流行ったダンス（マルモ）などが多く踊られているようである。また、保育で習ったダンスも好んで踊られているようである。

表16 保育現場で子どもたちがよく踊っているダンス

回答事例	件数	回答事例	件数
テレビやメディアの影響によるダンス	28	保育現場で行ったダンス	10
女性アイドルグループのダンス	6	運動界ダンス	1
テレビで流れてくるダンスやものまね	7	CDで教えたもの	1
テレビ番組（マルモ）のダンス	9	童謡に合わせたダンス	2
アニメソングに合わせて踊る	6	ハトぽっぽ体操・ライオン体操	2
チャダンス	1	アブラハムの子	2
		盆踊り	1
		フラダンス	1

（5）今後のダンスや身体表現への課題

① ダンスの研修の希望

今後、ダンスの研修を受けたりやダンスを習ってみたりしたいかどうかについて、「積極的にやってみたい、少しやってみたい、あまりやりたくない、やりたくない」の4選択肢より回答を求めた。その結果は表17に示す。表17より、「積極的にやってみたい」、「少しやってみたい」と回答した人は11人（28.9%）で多くはなかった。むしろ「あまりやりたくない」、「やりたくない」と回答した人が多く26人（68.4%）であった。

表17 今後のダンスや表現運動の研修

	人数	%
積極的にやりたい	2	5.3
少しやってみたい	9	23.7
あまりあまりやりたくない	25	65.8
やりたくない	1	2.6
無回答	1	2.6
合計	38	100.0

② 研修等で受けたいダンス

上記①でやってみたいと回答した人は、どんなダンスを習いたいのか、について自由記述（複数回答あり）で回答を求めた。その結果は表18に纏めた。表18より、自己研鑽が中心のダンスが多く28件であった。ダンスの種類はまちまちであるが、最近流行しているダンスが多い。また、子どものダンス指導に役立つものも多く希望されており、中でも子どもが楽しめるダンスの研修が望まれている。

表 18 研修等で受けたいダンス

回答事例	件数	回答事例	件数
自己研鑽するもの	28	指導に役立つもの	9
ヒップホップ	2	子どもが楽しめるダンス	6
クラシックバレエ	2	リトミック	1
フラ・ハワイアン	3	リボンダンス	1
ジャンルは特にない	2	運動会用のダンス	1
最近の曲に合わせたもの・かっこいいダンス	3		
激しくないもの	1		
体型をよくするもの	1		

③ 研修等をやりたくない理由

上記①でやりたくない・あまりやりたくないに○をつけた人の理由について自由記述で回答を求めた。その結果は表 19 に示す。表 19 より、最も多い回答は「得意でない」や「苦手」であった。

表 19 やりたくない理由

回答事例	件数
得意でない・苦手	5
人前で踊るのが恥ずかしい	1
どう動いていいかわからない	1
見るのは好きだがやりたくない	1
ごっこ遊びになるダンスならよい	1

④ ダンスや身体表現の研修会等で学びたいこと

今後、ダンスや身体表現について研修会等で学びたいことについて、自由記述で回答（複数回答あり）を求めた。その結果は表 20 に示す。表 20 より、研修等では、子どもの指導に役立つダンスを示しており、親子のダンスや子どものためのダンス、リズムダンスなど、また、表現の方法に触れるものや子どもの発達に即したものが示された。

表 20 今後の研修会で学びたいこと

回答事例	件数	回答事例	件数
親子で行うダンス	4	表現	3
親子のダンス	3	振り付け	1
親子がふれあう身体表現	1	大きく見える表現方法	1
子どものためのダンス	3	ゆったりと心を表現する動き	1
子どもたちが喜ぶ新しいダンス	2	その他	4
子どもの注意を引くダンス	1	年齢に即したダンス	1
リズムダンス	3	運動会用のダンス	1
音や楽器を使ったリズムダンス	1	実技がメインの研修	1
リズム遊び	1	興味を持たせる言葉がけ	1
リズムの取り方	1		

⑤ ダンスや身体表現についての指導で知りたいこと、疑問

その他、ダンスや身体表現についての指導で知りたいこと、疑問について、自由記述で回答を求めた。その結果は表 12 に示す。表 12 から、指導に直結するものが知りたいこととして挙げられていた。

【考察】

(1) 自身のダンス感について

筆者はこれまで保育を専攻する学生に、ダンスに関する調査を行ってきた^{4) 5) 6)}。その結果、

ダンスの好き・嫌いについては、「嫌い」の回答は僅か5.7%と少なく、「好き」と回答する学生は64.4%であった。本研究と比較してみると、

保育者では、78.9%の人が「好き」と回答しており、「嫌い」とはっきり回答した人がいないことから、保育経験を経ることによって、ダンスに対する受容感が高くなってくることが伺える。また、この講習を選択したことは、元々ダンスに対する受容意識の高い人が多かったとも推察される。

ダンスの得意不得意については、学生では「不得意」が32.3%を占めていたが、「得意」とするものは少なく、全般に不得意の者が多い傾向にあった。本研究では、63.2%の人が「得意」の傾向があるが、不得意の人は34.2%であったことから、現在の学生と同様にダンスを不得意とする人も相当多いことが伺える。また、本研究の対象者は学生時代には不得意だったが、現在は不得意が若干減少している。これは、保育経験によってダンスの技能が研鑽されてきたことが推察される。

(2) ダンスや表現運動の指導に関する事柄について、

現在、子どものダンスや表現運動を教えることは難しさについて、半数近くの人が「少し難しい」と感じているようであり、難しい点は、子どもの個人差やダンス嫌い、意欲の欠如、など、保育全般に関わる問題と一致する面が伺える。そして、保育者はその対応や打開案に苦慮している姿が推察される。本来、子どもは動くことが好きで、音楽を聴けば自然に身体を動かしたくなるものであったが、最近の子どもの中には、活動性の劣る子が増えているのも事実である⁷⁾。また、保育者自身の指導力の問題としては、ダンスの技能面での未熟さを実感したり、最近流行しているダンスにはついていけないことを感じているようである。

しかし、このような活動性に欠ける子どもや意欲に欠ける子どもたちにも、なんとかダンスを楽しんでもらいたいと願い、指導する上で多くの工夫がなされていることも明らかである。その中で、特に保育者と一緒に踊ることや、楽しんで踊れるよう言葉がけに工夫をしたり、子どもの好きな音楽を選んだりなどの工夫は怠らないようである。

保育者は、ダンスや身体表現のもつ意義や価値をどのように捉えているのか、という点について、「表現を楽しむ」、「楽しく身体を動かす」などの楽しさや喜びの要素を高く評価している。幼稚園教育要領、保育所保育指針に掲げられているように、「楽しく行う」ことは心身の健康や情緒の安定には欠かせない行動様式であり、また楽しみや喜びは、感性を高める心の動きでもある。その他、自己表現や心の解放、友だちとのコミュニケーションなども挙げられ、子どもの精神活動や社会性の発達に直結する活動としての意義があることが示唆される。つまり、ダンスや身体表現は子どもの心身の成長・発達に大きく寄与する活動としての認識を持って指導に当たっていることが明確になった。

(3) 今後のダンスや身体表現への課題

今後研修で受けてみたいダンスや身体表現は、自己研鑽のためのダンスが多く、その中には、最近流行しているダンスが多い。これは、子どもは流行に敏感であり、新しいものをど

表 21 ダンス・表現の指導上で知りたいこと・疑問など

回答事例	件数
運動会等でできるダンスについて	1
発達段階に合わせたダンスの動き	1
子どもの成長を促すようなもの	1

んどん受け入れて行きたいという願望があるので、保育者もそれに応えていきたいという気持ちがある。中でも子どもが楽しめるダンスの研修が望まれている。また、親子のダンスや子どものためのダンス、リズムダンスなどが希望されていることから、働く母親が増え、親子間のふれあいの時間が少なくなっている昨今⁸⁾にあって、親子ダンスによって親子がふれあう時間を確保してあげたいという願いが込められていると推察される。また、ノリのいいリズムダンスで、楽しく踊る喜びを与えたいと考えているようである。

【まとめ】

本研究の対象者のほとんどは現役の幼稚園教諭であった。これまで、筆者は保育士養成校の学生を対象として、子どもへのダンスの指導に関する課題について調査してきた。今回の調査では、対象者の生の意見や考えを聞きたいと思い、できるだけ自由記述の質問を取り入れてきた。自身のダンス感については、学生との相違は大きく感じられなかったが、子どもへの指導の観点からは、いかに子どもが楽しく充実した活動ができるかを念頭に置き、子どもの素直な気持ちを表現する方法や、表現を導き出す工夫などを凝らしている姿が浮き彫りにされた。

また、対象者の今後の課題としては、メディアの変化による子どもの情報源をいち早く察知し、子どもの欲求に応える指導を心掛けたいという熱意も感じられた。つまり、最近の子どもは、ダンスや表現には敏感に反応する子が増えている。かつては、テレビやアニメだけが主流であったが、最近ではネット環境の拡大から、YouTubeによって歌やダンスをいつでも最新のものが見られる環境にある。また、ゲーム機によるダンスレッスンなども普及し、子どもを取り巻くダンス環境が激変してきている。こうした環境の中で、保育の中にダンスや表現をどのように取り入れ、単なるダンスの「ものまね」だけではなく、子どもたちが自分の思いを自分の動きで表現し、心身共に成長できる指導を心掛けなくてはならないであろう。

今後、幼少連携体制がますます充実したものとなるので、保育者養成校では小学校の体育でのダンスや身体表現の授業を見据えて教育カリキュラムを考えていかなければならないであろう。筆者は、今後保育者を対象とした調査を増やし、その実態から保育現場で必要となる課題についての研究や研修会の開催計画などについても検討していきたいと考える。

引用文献・参考文献

- 1) 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 2008年10月 P.116 P.168
- 2) 厚生労働省 保育所保育指針解説書 2008年5月 P.96
- 3) 文部科学省ホームページ 幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント (2012年1月現在)
- 4) 宮下恭子 「保育専攻学生のダンスや身体表現に関する意識調査 ～幼児の指導を前提として～」 2010 12月 第6回亜細亜幼児体育学会 (於：韓国ソウル市) 学術大会発表論文集 pp.175-184
- 5) 宮下恭子 「表現遊びの指導に関する課題 - 幼児体育の授業を通して -」 2009年3月 東京成徳短期大学紀要第42号 pp.1-16
- 6) 宮下恭子 「学生のダンスや身体表現についての意識や自己評価に関する研究」 2011年3月 東京成徳短期大学紀要第44号 pp.87-100
- 7) 前橋明 幼児の体育 大学教育出版 2010年9月
- 8) 「幼児の生活アンケート」 2010年10月 Benesse 次世代育成研究所